

笹本寅（ささもとつよし）（1/2）

～唐津に文化運動をおこした人～

笹本寅は唐津市出身の小説家で、おもに戦国時代や江戸時代のできごとをとりあげて小説を書いた人です。『会津土魂』という小説では、『野間文芸賞』という、すぐれた作品にあたえられる賞を受賞するなど活躍しました。

さあ、これから小説家としてますます良い作品を書くだらうと人々が期待していましたが、寅は昭和22年の暮れに、あっさりとして小説を書くのをやめて、故郷の唐津へ帰ってきました。

小説家として成功しかけていたのに、なぜ笹本寅は小説を書くのをやめて故郷へ帰ってきたのでしょうか。

それには、次のような深いわけがあったのです。

第2次世界大戦で日本は、東京・大阪などの大都市ばかりでなく、全国の多くの都市が破壊されました。

東京は一面の焼野原になり、多くの人々が住む家や食物がなく、その日の生活にも困っていました。

世の中が乱れて、悪いことを平気でする人たちも出てきました。

東京に住んでいた寅は、世の中のこんな姿を見て、日本という国を建て直し、みんなが心の豊かな、平和で文化的な生活のできる世の中を作りたいと考えたのです。

でも、東京や大阪など大きな都市はほとんど焼野原です。どうすることもできません。それに比べて、故郷唐津は、爆撃もうけておらず、昔のままの美しい自然が残っています。人々の暮らしは貧しいけれど、人々の心は純ほくです。

寅は決心しました。「よし、唐津へ帰ろう。そして戦争に負けて心が荒れはてている人々に、豊かな心を取りもどしてもらおう。そして、唐津から日本を建て直す運動を始めよう。」と。

心の豊かさを育てるには、「文化」をおこす必要があります。よい音楽を聴き、美しい絵画を見れば心が豊かになります。よい映画や演劇を見て感動すれば、やはり心が豊かになります。

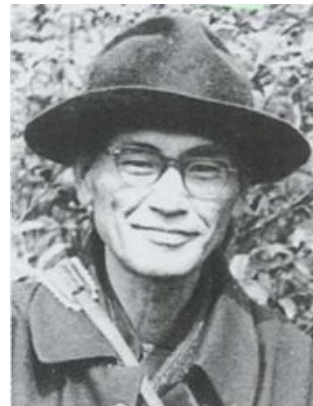
その他、いろいろな学問をやさしく人々に話してくれる学者の人たちの講演会も開きたい、スポーツもさかんにしたい、いろいろな「文化」を唐津からおこしていきたい、寅の夢は大きく広がっていきました。

～2/2へつづく～

分野 人物

地域 唐津

◎地図・写真・統計資料など



笹本 寅
(1902～1978)

(『郷土につくした人々』より)

◎引用・参考文献（出典）

◆『郷土につくした人々』
～ふるさと唐津の偉人たち～

◎もっと詳しく知りたい方は

唐津市近代図書館へ
お問い合わせください。

■電話：0955-72-3467

■ホームページ：
http://tosyokan.karatsu-city.jp/hp/cnts_lib/index.html

笹本寅（ささもとつよし）（2/2）

～唐津に文化運動をおこした人～

～1/2からつづく～

ところが、唐津へ帰って人々に自分の考えを説明しても、その反応は冷たいものでした。

「笹本さん。夢みたいなことを言わないでください。その日その日を、どうやって食べていこうかと、みな必死なんですよ。」

「文化でメシが食えますか？」

という答が返ってくるだけでした。

しかし、寅はあきらめませんでした。唐津の市長をはじめ、多くの人々にねばり強く働きかけていきました。

そのうちに、次第に寅の話に理解を示し、協力する人々が出はじめ、昭和23年3月に、ついに『松浦文化連盟』が結成されました。

それからというものは、『松浦文化連盟』の文化的行事が次々におこなわれ、唐津の人々の心にうるおいを与えました。

『松浦文化連盟』は、今でも活動しています。会長や役員は何人もかわりましたが、60年間も続いているのです。

寅は、昭和51年11月20日、病気のためなくなりましたが、このような文化運動はその後日本の各地に広がり、日本は世界の他の国々にも負けないような文化国家となりました。

小説家への道を捨てて、故郷の文化運動に尽くした笹本寅の名を私たちは忘れてはなりません。

分野 人物

地域 唐津

◎地図・写真・統計資料など



笹本寅詩碑
(松浦河畔公園)

笹本寅詩碑 松浦河畔公園
ふるさと唐津
すべての人に、そむかれても
鏡山は、俺にはほえみかける
一切のことに、敗れても
松浦は俺にやさしい、ふるさと
心が荒れ洗んだ時、千代田橋に立つ
俺を和ませふるい立たせる
美しい唐津
そむかれても、敗れても
勝るところ、カのみなもと
俺は待っている
寅

笹本寅詩碑
(松浦河畔公園)

(『郷土につくした人々』より)

◎引用・参考文献（出典）

◆『郷土につくした人々』
～ふるさと唐津の偉人たち～

◎もっと詳しく知りたい方は

唐津市近代図書館へ
お問い合わせください。

■電話：0955-72-3467

■ホームページ：
http://tosyokan.karatsu-city.jp/hp/cnts_lib/index.html